

# 公益財団法人 かわさき市民しきん

## 2022年度 事業報告書

### 1. 「かわさき市民しきん」の目的

当財団は、市民や企業の志のある寄付を募り、社会の課題解決や地域の活性化などの公益活動を応援し、川崎を誰もが暮らしやすく、人や命にやさしい地域にすることを目的とする。

### 2. 「かわさき市民しきん」が目指すもの ～「かわさき市民しきん」が目指す未来の川崎～

- ・寄付することが“自然”、“カッコいい”と思う市民が増える。
- ・市民自らの手で、川崎というコミュニティを豊かで快適にしていこうという気持ちが集う。
- ・コミュニティのなかで市民の「お金」がスムーズに循環し、自立して持続できる社会となる。
- ・寄付し、寄付されることで、市民の生活や気持ちが豊かで、快適になることを市民自身が実感できる。
- ・市民が積極的にかかわり、ワクワクして、サポートしたいと感じるプロジェクトに「お金」が集まる。

### 3. 2022 年度を振り返って

2022 年度は引き続き、新型コロナウイルスの影響を受けた一年でした。公益財団法人として 5 年目、財団の設立からは 8 年目の事業となりました。

【事業支援しきんあとおし】では、2020 年度にスタートした、ウェブサイト「かわファン」を通じて 2022 年度は 7 団体に助成を行いました。応募団体数、寄付総額ともに増加しました。

【意思実現しきん いしずえ】については、困難な問題を抱える女性へのサポート事業として、2020 年度に 5 団体に対して助成事業を実施したもののうち、1 事業については実施を 2022 年年度に延期し、実施しました。また、2020 年度のご寄付により、生活困窮者へのサポート事業助成を行いました。2 期に分かれて、合計 7 団体に助成を行い、事業を完了しました。

川崎市から受託を受けているプロボノ事業については、「川崎プロボノ部 2022」をオンラインにて運営し、コロナ禍においても、多くの方が地域の活動にかかわる機会を提供することができました。

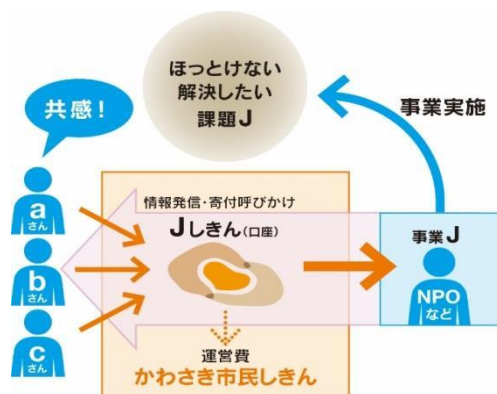
引き続き、コロナ禍の影響を受け、生活様式や社会の在り方が変わる中、オンラインとリアルを併用しつつ、事業を行う事ができました。

### 4. かわさき市民しきんの主な事業報告

#### (1) 助成プログラムの実施

##### ① 事業支援しきん あとおし

「川崎で今、何が必要か?」「川崎の課題は何か?」。実際に川崎市内で活動する NPO などから、今必要とされている事業を募集し、選考します。そして、当財団を通して、それを広く市民に訴えその解決策(=NPO などが行う取り組み)への寄付金を事業ごとに集めます。寄付者は支援したい事業を選んで寄付をします。集まった寄付金から運営経費(寄付金の 15%)を引き、それぞれの事業に助成します。



◆2022 年度の「あとおし」実施報告

2020年9月に地域限定クラウドファンด์「かわファン」サイトを立ち上げました。「あとおし」の基本的な仕組みは変えずに、事業の応募はいつでも可能、寄付募集期間と寄付募集の方法（All or Nothing か All in）は応募団体が選択できる、という応募団体の自由度が増して、応募しやすくなりました。

2022年度は、7団体から応募があり、7団体とも今年度中に寄付募集終了しました（1団体は2021年度からの継続事業）。

・2021年度に応募し、寄付募集が終了した助成対象事業

団体名	事業名	目標金額	寄付金総額	助成金額	寄付者数
Kawasaki Saori Art プロジェクト実行委員会	川崎駅北口自由通路ほか公共空間で Saori アートを展示したい	800,000	840,000	681,000	57名
アートロジ麻生	アートロジ片平 わが町をもっと面白くするアートの仕掛け「アートロジ」	1,200,000	7,000	5,564	3名
特定非営利活動法人 ダイバーシティサポートかわさき	障害者雇用で成功している企業の事例を川崎で広めたい	300,000	125,000	101,405	7名
脱炭素アクションみぞのくち環境教育プロジェクト	子どもたちに YouTuber 体験で脱炭素を学んでもらいたい！	500,000	520,000	420,660	56名
川崎のストリートダンスサポーター	川崎在住のブレイクダンサーの世界大会出場を応援したい	2,000,000	2,067,000	1,756,950	135名
一般社団法人プラスケア	毎日ふらっと寄れるくらしの保健室を川崎に作りたい！	1,000,000	1,651,000	1,338,051	122名
川崎市小学生ハンドボール交歓会実行委員会	小学生ハンドボールに夢をプレゼントしよう！	200,000	541,000	436,384	87名
合計		6,000,000	5,751,000	4,740,014	467名

◆「あとおし 2021」事業の実施報告について

「あとおし 2021」の助成対象事業については、かわファン上で報告を掲載しています。どの事業もきちんと実施されました。

②意思実現しきん いしづえ

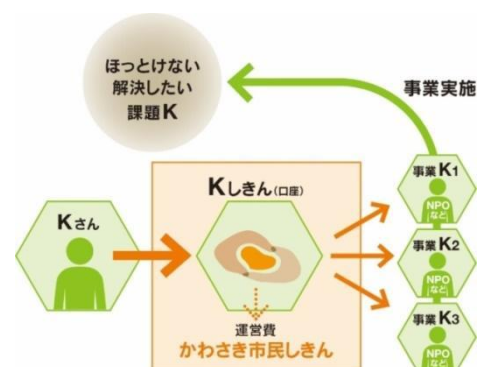
特定の目的のための“しきん”を当財団がお預かりし、その目的のために活動する NPO などへ助成するプログラムです。思いを形にして残すことができたり、故人の思いを後世に伝えることもできます。名称は自由に付けることができ、助成対象やテーマを指定することができます。事例として以下を参照。

- ・創業などの周年事業として、地域社会への恩返しを目的とした助成
- ・家族のご逝去にあたり、その方の志を残すための助成

2022年度は寄付金の申し出はありませんでした。

◆2020年度の「いしづえ」の実施報告

DV被害者のシェルターを運営していた NPO 法人「グループビボ」が解散にするにあたり、その残余資金を2019年9月に



当財団に寄付していただきました。グループビボの長年の活動にふさわしい助成プログラムとするため「困難な問題を抱える女性へのサポート事業」を行っている団体に対する助成プログラムを組成することとしました。2019年度は準備期間とし、2020年度に助成事業を実施することとしました。4事業は2021年度中に終了していますが、1事業のみ、2023年2月に実施となりました。

・横浜YWCA（横浜市）「朗読劇ひまわり～DVをのりこえて」の公演

#### ・2021年度の「いしずえ」の実施報告

2020年度に市民の方から親御さんの遺産をご寄付いただき、2021年度に生活困窮者へのサポート事業助成を実施しました。2022年度中にすべての助成事業が終了しました。

助成先団体及び実施事業／金額

##### ◆1次募集＜事業実施 2021年10月～2022年9月＞

- 1 川崎水曜パトロールの会（川崎区） ホームレス巡回相談事業／50万円
- 2 カラカサン-移住女性のためのエンパワメントセンター-（幸区）  
外国籍移住女性のためのエンパワメント／50万円
- 3 フリースペースたまりば（高津区）  
困っている方のニーズを聞き取り、寄り添う「えんくる CAFE 事業」／50万円

##### ◆2次募集＜事業実施 2021年12月～2022年11月＞

- 1 ホットスペース中原（中原区） こども学習支援／50万円
- 2 桜本こども食堂（川崎区） 外国につながる子ども入学応援プロジェクト／30万円
- 3 フードバンクかわさき（多摩区） フードバンク活動による困窮者支援／50万円
- 4 社会福祉法人川崎聖風福祉会（川崎区） てんとうむしハウス（共生食堂）／26万円

#### ③課題設定しきんたくわえ

川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを設定し、その活動について寄付を集めます。集まった寄付を、そのテーマで活動するNPOなどが行う活動に助成します。

・かわさきっ子すくすく基金

2021年度は、子ども食堂基金を「かわさきっ子すくすく基金」とより広く子どもを対象として寄付を募り、助成事業として実施しました。2022年度は事業実施期間となり、すべての事業が終了しました。

実施団体／事業名（各団体5万円×6事業 計30万円）

- ①unicocco／SDGs・アップサイクル活動
- ②発達障害×空間ラボ／  
発達特性のあるおこさんとそのご家族の居場所づくりと住まいの改善サポート
- ③かわさき包括的セクシュアリティ教育ネットワーク Csexologue／  
包括的セクシュアリティ教育教材（絵本）作成活動
- ④ママナビじかん実行委員会／ママナビじかん
- ⑤ふらっと新百合ヶ丘／親子で自然に触れよう！楽しもう！
- ⑥Link mama／ママの為のものづくりワークショップ×癒しの時間

・かわさき災害対策基金

2022年度は、7月26日（火）にオンラインにて「『川崎災害対策基金』設立記念 防災・復興活動団体情報交換会」を開催しました。19名の方に参加していただき、川崎市内で活動されている4団体の方々に日頃の活動や展望、基金設立への期待などを語っていただき、地域の防災力を高める機会となりました。

#### ④寄付文化創造に向けた講座・セミナーの開催

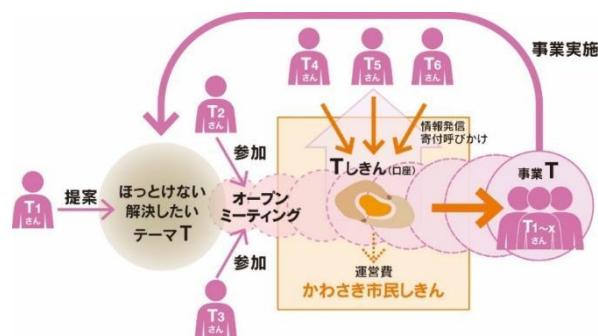
コロナウィルスの感染防止の影響もあり、今年度は広く地域の課題解決に取り組む個人や団体に向けてのセミナーは実施しませんでした。川崎市が行うカワサキコネクにて、「かわファン」の紹介を行いました。

## (2) 調査研究事業 共感共鳴しきん えんたく

独自のテーマ設定で川崎のさまざまな活動を調査・研究するプログラムです。参加者は「こども」「環境」「介護」など、川崎が抱える課題の解決や地域の活性化を目指すテーマを当財団とともに提案し、運営に関わることができます。提案者は助成に必要な資金を当財団と一緒に集め、主体的にプログラムを展開します。

### ◆2022年度「えんたく」の実施報告

2022年度は事業実施しませんでした。



## (3) 相談・支援事業

### ①川崎プロボノ部 2022 の実施

昨年度に引き続き、2022年度は川崎プロボノ部として川崎市の委託を受け、実施しました。市民が主体となって参加するプロボノコミュニティの構築を目指して、実施しました。コロナウィルスの感染防止のため、基本的にオンラインで実施しました。

#### ■実施内容

オンラインセミナー・説明会の開催：全6回

支援団体:9 団体、参加プロボノワーカー：34 名、運営委員 10 名

プログラム：オリエンテーション、キックオフミーティング、成果提案、振り返り会、報告会

#### ■成果

主な成果としては、以下の3点となります。

- ・多様な支援先団体へのプロボノプロジェクトでの支援の実施
- ・市民が主体のプロボノコミュニティの構築
- ・コロナ禍におけるプロボノプロジェクトの実施

コロナウィルスの感染防止のため、ほとんどのプログラムをオンラインで実施し、多様な支援先へのプロボノプロジェクトでの支援が実施できました。その中で、運営委員が主体となって説明会などの運営を実施することができ、川崎でのプロボノコミュニティの構築をしていくことができました。

### ②川崎住宅奨学金事業への支援(対象川崎市内の高校2、3年生)

一般財団法人川崎住宅奨学会の奨学金事業について、学校への案内や応募者の取りまとめなどの支援を行いました。2022年度は6年目となります。応募が少なかったため、追加募集を行い、継続10名新規10名合計20名の奨学生が選定されました。2023年度の募集開始についても、案内の送付などを行いました。

## (4) その他の事業

### ①寄付者獲得プロジェクト

かわファンにより、かわさき市民しきんが集めた寄付金の使われ方が広く見えるよう、寄付の「見える化」のために、市民しきんのこれまでのHPのリニューアルを実施しました。

### ②寄付者定着プロジェクト

ウェブサイトやメールマガジンを通じて、活動の報告を行いました。

メールマガジンの発行 7回

## (5) 賛助会員制度と応援寄付

当財団の事業を実施するために、趣旨に賛同する企業や個人を対象に、賛助会員制度を設けています。このような寄付を促進し、社会の課題解決や地域の活性化をしていく公益財団法人「かわさき市民しきん」のプログラム自体に賛同し、応援してくださる方を対象とします。

### ①パートナー賛助会員 年会費 50万円

企業にとっても、CSR活動や人材育成の活性化につながるよう、プログラムに様々な形で参加で

き る 制 度。  
企業の人材育成＝プロボノ参加（若手、シニア社員）、協働CSRマーケティングなどの価値を、  
地域課題解決に取り組むNPOなどへの支援を行う中で一緒に共創します。

②賛助会員 企業・団体 1口1万円、5口以上で賛助会員証を発行。

③個人会員 1口5千円

④応援寄付 どなたでも、いくらでも当財団の応援への寄付です。

◆2022年度実績

賛助会員 個人10名/12口

賛助会費 58,000円

応援寄付/個人4名 228,000円

賛助会費、応援寄付ともに減少しています。これまでの寄付者に、再度お願いする必要があります。